

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0160590071), 法人名 (社会医療法人 恵和会), 事業所名 (アメニティ西岡水源池グループホーム 1階 百花), 所在地 (札幌市豊平区西岡4条13丁目7番20号), 自己評価作成日 (令和3年9月1日), 評価結果市町村受理日 (令和4年2月28日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

変わらずコロナ禍のため、窓越しやリモート面会を行っている。昨年コロナ禍を経験した上で出来ることを増やそうとの事でホーム内行事を増やした。月に1度のお楽しみメニュー等、食べる事に楽しみを持ってもらっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0160590071-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年12月8日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、西岡水源地に程近い住宅地に位置し、近隣にはコンビニ、病院、バス通りと至便である。運営母体は医療法人で、老健から居宅、訪看、訪介、委託として包括と総合的に介護事業を展開しており、法人内の多様な福祉サービスとの連携体制のもと、認知症介護に取り組んでいる。職員は、理念にも掲げている地域との絆を重視し、行事への積極的参加や福祉に関する相談に応じる等で、法人全体で地域に根ざした事業所運営に努めている。コロナ禍で全てが制限されるなか、毎月、利用者の嗜好に合わせた食事会やホーム行事等を企画し、楽しみある生活となるよう注力している。また、外出についても外気浴等、出来る事から少しずつ取り組み、コロナを理由に閉じこもる事のないよう、職員間で検討を重ねている。今後も変わらぬ尽力に期待したい。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との絆を大切にしたい理念を作成している。また職員間で作られた理念がどのような思いや意味が込められているのか、年1回の勉強会で確認している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作成し、日常的に共有している。また、定期的に勉強会の場で振り返り、質の高いサービスが実践出来るよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍により地域の方々との交流は控えている。コロナ禍が終息したら以前のように地域の方々との交流を考えている。	通例では、地域代表の運営推進会議への参加や、災害時の相互の協力体制等、関係の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の回覧板でホーム内の状況をお知らせしている。運営推進会議などで、認知症の理解を深めて頂けるように資料を配布しアドバイスに応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により集まる事は行っていないが、書面でホームの様子等を報告し電話でご意見も伺っている。コロナ禍が終息したら以前のように開催する予定。	通例では、行政や各委員等の参加を得ながら、運営推進会議を2ヶ月毎に定期開催している。書面での開催となった現在は議事録を送付し、意見を聞き取ることで、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者や役職者は札幌市の担当者と日頃から電話で問い合わせ確認、相談を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	市、地域包括支援センターから情報提供や指導を受けている。通例では、定例の運営状況報告や、地域高齢者や事業所の状況について、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回、身体拘束に関する勉強会を行い、年に4回身体拘束適正化委員会を実施している。その他、外部の研修等に積極的に参加している。	身体拘束適正化委員会を設置し、指針を基に3か月に1回開催している。委員会では、現状の検証を行い、全職員で共有している。不適切なケアと思われる事は、相互に注意し合えるよう職場環境にも配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍のため研修等に参加できていないため、ホーム内で虐待についての資料は配布し理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に成年後見制度等の勉強会を行っている。不明な事があれば、運営推進会議等で地域包括支援センターに確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナ感染拡大防止のため、契約の際は、タブレットでホームの様子を見て頂き、話し合いや相談に応じている。また十分な説明を行い、合意を得た上で契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より話やすい雰囲気作りを心がけている。また毎月、ご家族向けのお便りを発行し、個々の活動状況等を報告している。	本人・家族が意見・要望を話しやすい関係作りを心掛けている。感染防止に留意しながら、面会も弾力的に再開しており、コロナ禍であっても自由に話せる環境作りに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談を実施し、常時、意見交換できる雰囲気を作っている。また職員会議でも意見や提案を積極的に聞き取りを行っている。	毎月の職員会議の場で、職員が自由に意見を述べる機会があり、皆で検討し、ケア手法や業務の改善に活かしている。管理者は、定例の個別面談の他、随時相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員が協力し合って、希望する休みが取得できるよう努めている。また職員一人一人が向上心を持って働けるよう、毎年、目標を作成している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年法人内で行っている介護職員資質向上研修会はコロナウイルスの影響で中止や一部オンライン等で実施している。ホーム内での勉強会は毎月テーマを決め書面で行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染拡大防止のため、交流することは控えている。電話等で情報交換を行い、サービスの向上に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、状況によっては日中、他ご利用者と過ごす時間を設けるなどコミュニケーションを図る取り組みを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ感染拡大予防のため、事前にご利用者にご訪問面談をさせて頂き、不安なく生活して頂ける関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各事業所と情報を共有し、必要なサービスがあれば相談してご利用者やご家族の要望が聞き入れられる支援の対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を築き、日々生活を共にすることで、ご利用者の思いや変化に気づき、役割を持って生活して頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や変化があった時は電話でご本人の状況報告を伝えながら、ご家族の不安や求めている事を、その時々と一緒に考え、支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため外出はできないが、書面での推進会議や毎月のご家族へのお便り、町内会の回覧などホームでの様子はお伝えしている。	馴染みの方が気軽に来て頂けるような環境作りに努めており、コロナ感染防止に留意しながら、リモートやガラス越し等、多様な面会方法を検討、実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自室にとどまる事が無いようスタッフが声掛けし、レク活動やテーブルゲームなど感染対策をしながら行い、楽しんで頂けるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の終了後でも、これまでの関係を継続できるように、いつでも相談を受け、関わりが持てる体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、一人ひとりの希望を、お聞きし、またご利用者からの情報や協力を得ながら、意向の把握に努めている。	個々の意向や希望の聞き取りに注力している。申し送りや会議等の場で協議し、可能な限り応えられるよう取り組んでいる。	最終段階に関して、最後の時間をどこで過ごしたいのか等の具体的な思いを聞き取り・記録し、より本人本位の生活となるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プロフィールの中には生活歴や生活環境などご家族やご利用者から得た情報が詳しく記入されており、誰もが把握できるように介護観察記録等にも保管している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの一日の過ごし方を、申し送りや記録を通して職員全員が把握し、介護計画に反映させている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の生活を職員間で観察し、いろいろなケアの方法を試しながら、どのような問題があり、どのようなケアを提供したらよいか話し合っている。また、ご利用者やご家族の意見も取り入れより良く暮せるように介護計画を作成している。	介護計画の作成は6ヵ月毎としているが、状況変化時には都度検討し、見直している。全職員の視点で課題評価を行い、毎月の会議で本人と家族、医療関係者の意見を踏まえて検討し、計画作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録に、日々の状態の変化や気づき等を記載し、職員間での情報の共有をしている。記録には介護計画の実践や結果を記入し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご利用者の状況に合わせ、ご家族やご利用者の要望をお聞きしている。また担当医と連携を図り、異変時等に素早く対応出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染拡大の影響で町内会の活動(運動会・町内掃除)や読み聞かせのボランティアの来所は控えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者・ご家族と十分に話し合い、要望を聞きながら、担当医と連携を図り、適切な医療を受けて頂けるように支援している。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。また、母体医療機関による訪問診療の受診結果については都度、お便りや電話で家族に伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療、訪問看護に相談や報告する事で、対応できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	入院・退院時に備えて、日頃から医療機関と相談、報告、情報提供等を行い、円滑に対応できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者・ご家族の意向を尊重し、主治医と話し合いを重ねている。重度化・看取りの指針を共有し、その方に合った介護計画を作成し関係者と共にチームで支援を行っている。	契約時に事業所の指針を説明し、同意を得ている。母体である医療機関との連携体制があり、家族と共に終末期を支えるために話し合いを重ねている。利用者の状況に合わせた職員間の話し合いも、適時行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時のマニュアルを作成し、速やかに動けるように勉強会で確認をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ感染予防のため地域の方との避難訓練は行っていない。ご利用者と一緒に避難訓練を行っている。	消防署年2回の火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。隣接する同法人の事業所、地域町内会との協力体制も含め、備蓄品の確認を行い、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	標語ポスターを掲示し、職員一人ひとりが意識しながら、ご利用者と接する事ができるように努めている。	事業所の指針を基に、不適切な言動や声掛けがあれば都度、職員間で注意喚起し、利用者の尊厳を損ねるような対応にならないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や行動、仕草で察する事ができるように、日々支援に当たっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分、ペースに合わせて、思いのまま過ごして頂けるように、意思を尊重して支援に当たっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ感染予防のため、様子をみながら2ヶ月つに一度程度、訪問理美容や定期的に馴染みの美容室を利用して頂いている。好きな服の着用やお化粧品は個々に任せている。困難な方には、ご家族が洋服等を用意し、協力を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナの影響はあるが、感染対策しながら行ったり、月に1回お楽しみメニューを作り、季節の物を味わってもらっている。	季節感、盛り付けに配慮し、彩りあるものとなっている。感染防止に留意しながら、調理の過程や下膳、テーブル拭き等のお手伝いをお願いして、食事が楽しみある時間となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分量と食事量を記録している。咀嚼状態や嚥下状態に合わせて食事の形態や配膳のタイミングを配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、能力に応じて介助、声掛け、見守りを行っている。コロナの状況を見て訪問歯科の診療を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に基づいて、時間誘導や行動、仕草を察して誘導する等の一人ひとりに合った支援を行っている。	トイレでの排泄を基本として取り組んでおり、チェック表を用い、個々の排泄パターンをしっかり把握したうえで、排泄の自立に向けて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に乳製品を提供している。排便の記録を見て、看護師が腹部音を確認し、下剤の調整、マッサージを行っている。また毎日ラジオ体操を行う事で、排便を促すようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の設定はあるが、拒否・体調不良等がある場合は無理に行わず、違う日に対応している。又、週ごとに入浴日を調整している。	曜日や時間帯を制限せず、出来るだけ利用者の希望に応じて、好みの入浴剤を使用する等、快適な入浴となるよう支援している。同性介助の希望にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じた休息をとって頂き、生活リズムを整えるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は介護記録と一緒に綴って、いつでも確認できるようにしている。形状・内服方法に配慮して、確実に内服できるように努めている。又、薬剤師からの助言も都度受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアプランに役割や楽しみごとを取り入れ支援したり、レクやテーブルでの活動を増やし、他者とのコミュニケーションをとれる様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候に応じて少人数で花の水やりや散歩に出ている。コロナの影響で、外出ができないので室内での活動がほとんどになっている。	通例では個別に声掛けし、散歩や買い物等、行事ではないお出かけが出来るよう支援している。コロナ禍であるが、閉じこもることのないよう、感染防止に留意しながら、気分転換や心身の状態維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理ができる方はご家族に承諾を頂き、少額でも所持できるように支援している。また管理ができない方はホームで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望があれば電話を使用して頂き、電話がかかってきた時は、職員が取り次いでいる。手紙が来た時は代読している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に限らず、不快や混乱をまねくような刺激音、光、色、広さ、温度等に繋がらないように配慮し、清潔に保つように気をつけている。フロア内に季節を感じて頂けるような装飾と、回想に繋がるように毎月の行事等の写真を掲示している。	共有空間には季節感ある作品が飾られ、明るさや温・湿度も調整されている。手摺りなど安全面も配慮されており、利用者が好きな場所ですぐと過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内の数か所にソファを設置している。ご利用者が選択して、思い思いの場所で過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を家族と相談しながら、使用して頂けるようにしている。それぞれの好みでラジオやテレビ・本棚・机・写真を配置し、心地良く過ごして頂けるように努めている。	居室には、自宅から使い慣れた家具や雑貨が持ち込まれている。状態の変化が見られた場合は、本人や家族と相談して整理・模様替えを行い、安心して過ごせる環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ自立した生活が送れるように、場所の表示やポスターも分かり易いように工夫している。		